

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成26年5月

北九州市小倉地区（福岡県）

全体総括

○計画期間：平成20年7月～平成26年3月（5年9ヶ月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき、『世界の環境首都を目指す北九州広域都市圏の中心核（顔）にふさわしい機能・環境・つながりを創出する先進都心・小倉』を基本テーマとして、都市基盤整備や賑わい拠点の形成などを中心に各種事業を実施したところ、新たな集客施設の開設やまちなかイベントによる賑わいの創出により、中心市街地の活性化に一定の効果があった。

公共事業では、都市計画道路の整備や大規模な公園(再)整備に加え、新たな文化施設の整備により、都心への交通アクセス強化や都心の魅力向上が図られた。

特に、浅野町線（シンボルロード）や勝山公園では全国規模のイベントが開催されるなど、市内外からの来街者増加に大きく寄与している。また、計画期間内に開設した北九州市漫画ミュージアムは新たな文化の発信拠点となっており、日常的な賑わいの向上に寄与している。

民間事業では、小倉駅周辺に新たな賑わい拠点が形成されたほか、2つの商店街を繋ぐループの整備により、来街者が安全・快適に回遊することができる環境が整った。また、再開発事業や高齢者福祉施設の整備により都心居住の促進が図られた。

特に、小倉駅近くで長期間空いていた商業ビルを活用した複合施設（あるあるCity）は、多様な人々の集客・回遊の拠点となっており、まちなかの賑わい創出に大きく寄与している。また、小倉記念病院の移転開院により、高齢者も安心して生活できる居住環境が整った。

2. 計画した事業は予定通り進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

計画していた103事業のうち98事業は計画期間内に着手し、具体的な取り組みが進められており、再開発事業など一部に遅延が見られるものの、概ね順調に進捗したといえる。

また、各取組により、歩行者通行量や主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数、事業所従業者数は目標値を上回ることが出来なかったものの、基準値を上回り増加傾向に改善した。

大規模商業施設の年間来店者数については、計画当初の減少傾向から横ばいに改善したものの、基準年値を下回った。

しかし、下記「4.」の通り、中心市街地活性化協議会から徐々に取組みの効果が始まっていると評価を受けていることや、下記「5.」の通り、従前に比べて都心エリアが活性化していると市民からの評価を受けていることなどを総合的に勘案すると、中心市街地の活性化には一定の効果が得られたと考えられる。

3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（北九州市としての見解）

道路・河川・公園などの公共インフラ整備が相当程度進捗し、この効果を十分に活かすため、地区における商業・文化・娯楽・医療機能など、活発な民間投資が次々に行われた結果、まさに新たな魅力が創出され、市内外から多くの来街者を集めるようになった。

また、ソフトの取り組みでは、新たなまちづくり団体の組織や既存のまちづくり団体の活動が活発化したことで、まちなかで実施する賑わいイベントが定着してきた。

こうした取り組みにより、都心部の魅力や快適性が向上し、まちなかの歩行者が増加したことなどで、まちの賑わいや活力が向上したと考えている。

しかしながら、経済情勢の悪化や、地権者の合意形成の難航などにより、主要事業に位置づけた新たな賑わい拠点・集客核として期待された事業が未着手となったこと、商業活動への波及効果が相対的に低いこと、大規模コンベンション施設を利用した展示会等の来場者数が伸び悩んだことなどにより、効果発現が限定的なものになったと考えている。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

基本計画期間中に起きたリーマンショック、東日本大震災等未曾有の事態は、日本全体の経済情勢に厳しい影響を及ぼしたにとどまらず、少なからず地方経済の活性化に対しても逆風ともいえる厳しい打撃を与えた。

このような状況の中、北九州市小倉地区中心市街地活性化協議会は、目標達成のため基本計画へ追加する新規事業への意見提示をはじめとして、行政、関係団体等と協議調整しながら地域経済の高揚、まちの魅力向上、持続的な発展に向けた中心市街地活性化の推進を図ってきた。

結果、基本計画認定事業も当初の77事業から103事業へと大幅に増加し、計画に位置づけられた事業も概ね順調に実施された。ハード面におけるインフラ整備は民間事業において一部未着手未完了があるものの行政主体の事業は全て実施され、またソフト事業については各種団体等さまざまな関係者の継続的な努力協力によって計画期間内にほぼ着手し、効果を発現している。

協議会では、平成24年10月より基本計画の効果検証を重ね、平成25年7月には検証の中間とりまとめを行った。

会員意見としても、数値目標の達成には至らなかったものの各種取組みを行わなかった場合の下

降傾向に対する歯止めの効果を生み基本計画に取組んで良かったという声が多く、この基本計画の取組みは中心市街地の活性化に一定の成果があったとの評価を得られた。また、まちなかには活性化の兆しが現れるなど徐々にではあるが取組みの効果が始まっており、基本計画は相当程度の効果があったものと評価できる。

効果検証により、今後の改善の道筋も示された。今後は、地域に密着した活性化推進のため、まちの魅力向上・持続的な成長・発展に向け、官民を挙げて努力していくことが必要であり、官・民・学が一層連携し一体的に各種事業を協働で積極的に進めていき、中心市街地の活性化を図っていく必要があると考える。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【実施概要】

小倉地区中心市街地の活性化に関する市民意識調査

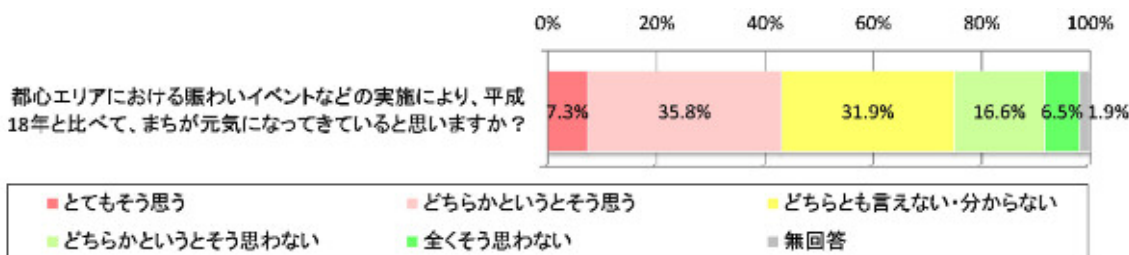
調査日：平成 25 年 7 月 1 日～8 月 23 日

調査方法：20 歳以上の市民 2,000 人を無作為抽出しアンケートを郵送

有効サンプル数：523 人

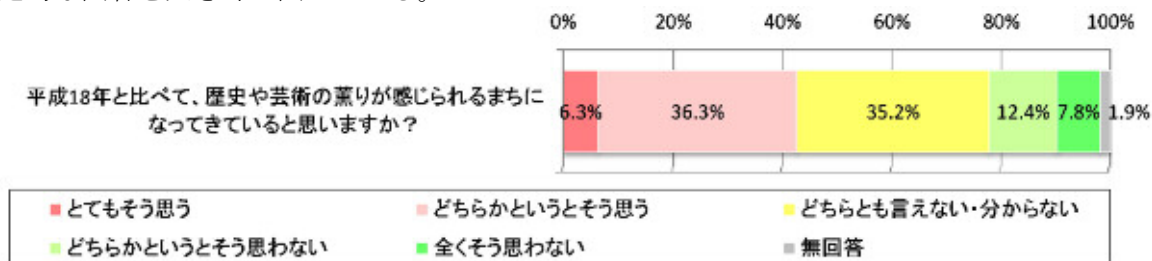
① 目標 1 広域商業拠点の賑わいの向上について

- ・「都心エリアにおける賑わいイベントなどの実施により、平成 18 年と比べて、まちが元気になってきていると思いますか？」という質問に対して、全体の 4 割以上が「とてもそう思う」「どちらかというと思う」という肯定的な回答をしており、「どちらかというと思わない」「全くそう思わない」という否定的な回答を大きく上回っている。



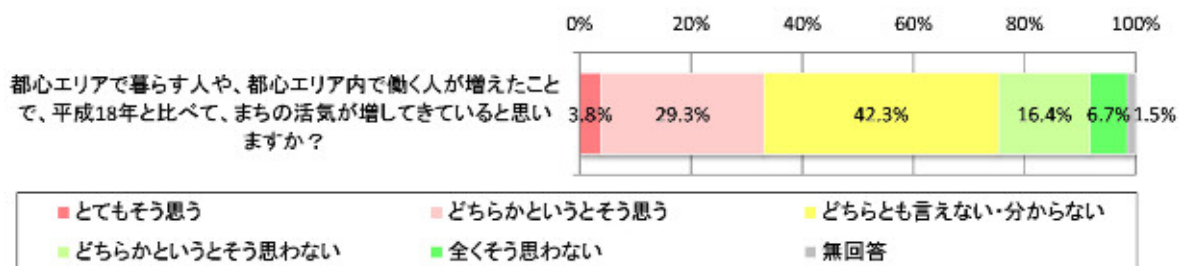
② 目標2 文化的で非日常的な都心の魅力向上について

- 「平成18年と比べて、歴史や芸術の薫りが感じられるまちになってきていると思いますか？」という質問に対しては全体の4割以上が「とてもそう思う」「どちらかというと思う」という肯定的な回答をしており、「どちらかというと思わない」「全くそう思わない」という否定的な回答を大きく上回っている。



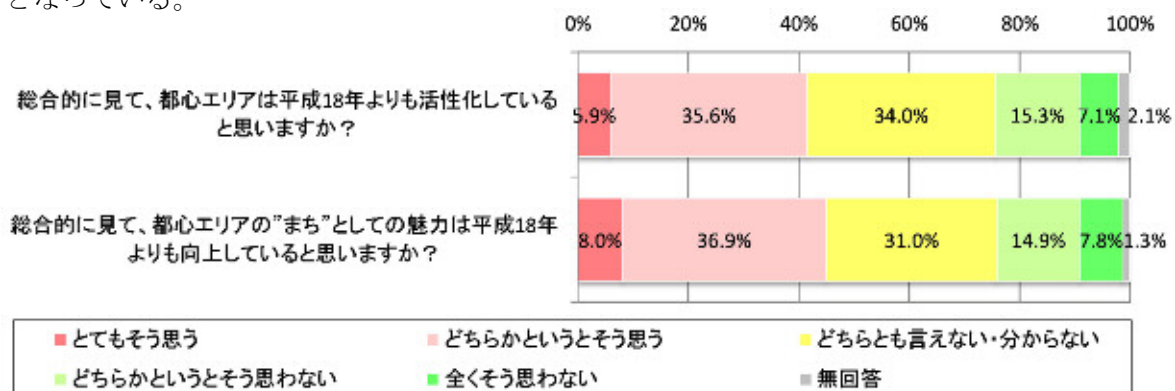
③ 目標3 昼間人口の拡大による活力向上について

- 「都心エリアで暮らす人や、都心エリア内で働く人が増えたことで、平成18年と比べて、まちの活気が増えていると思いますか？」という質問に対しては、「どちらとも言えない・分からない」という回答が4割以上を占めているが、「とてもそう思う」「どちらかというと思う」という肯定的な回答も3割以上となっており、否定的な回答を上回っている。



④ 小倉地区中心市街地（都心エリア）のまちづくり全般について

- まちづくり全般についての総合的な評価である「総合的に見て、都心エリアは平成18年よりも活性化していると思いますか？」「総合的に見て、都心エリアの”まち”としての魅力は平成18年よりも向上していると思いますか？」という質問に対しては、いずれも全体の4割以上が「とてもそう思う」「どちらかというと思う」という肯定的な回答をしていることから、市民の実感としてはまちの活性化や魅力向上が図られてきているものと考えられる。
- ただし、いずれの質問に対しても「どちらかというと思わない」「全くそう思わない」という否定的な回答も2割以上あり、活性化等を実感するに至らない市民も一定程度見られる状況となっている。



6. 今後の取組

基本計画の取り組みにより、ハード事業は一定程度のめどが立つとともに、まちなかには歩行者や従業員が増加するなど、中心市街地に活力が戻り、活性化に転じつつある。

このため、これまでに整備した新たな集客拠点や都市基盤施設を活用し、来街者の回遊性向上を図るなど、ソフト事業に重点を移しつつ、より力強い活性化に向けた流れをつくっていくための取り組みを進める。

また、計画期間内に着手できなかった民間事業の進捗を注視するとともに、既存事業の拡充などについて検討を行うほか、引続き地元事業者等と密にコミュニケーションを取りながら、官民一体となって商業の活性化を推進するなど、中心市街地のさらなる活性化に向けた取り組みを着実に進めていく。

(参考) 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
広域商業拠点の賑わいの向上	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	146,958人/日 (H19)	177,000人/日 (H25)	152,265人/日	H26.3	B
	大規模商業施設の年間来店者数	48,695,683人/年 (H18)	52,000,000人/年 (H25)	45,548,223人/年	H26.3	C
文化的で非日常的な都心の魅力向上	主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数	165.0万人/年 (H18)	197.0万人/年 (H25)	189.7万人/年	H26.3	B
昼間人口の拡大による活力向上	事業所従業員数	64,612人 (H18)	69,000人 (H25)	65,264人	H26.3	B

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

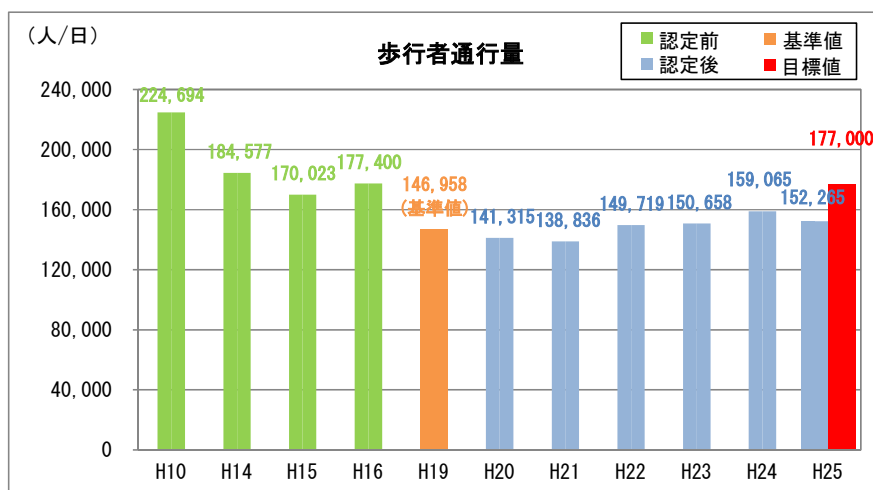
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

目標「広域商業拠点の賑わいの向上」

「商店街エリアを中心とした歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P70～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H19	146,958 (基準値)
H20	141,315
H21	138,836
H22	149,719
H23	150,658
H24	159,065
H25	152,265
H25	177,000 (目標)

※調査方法：実測数の平均

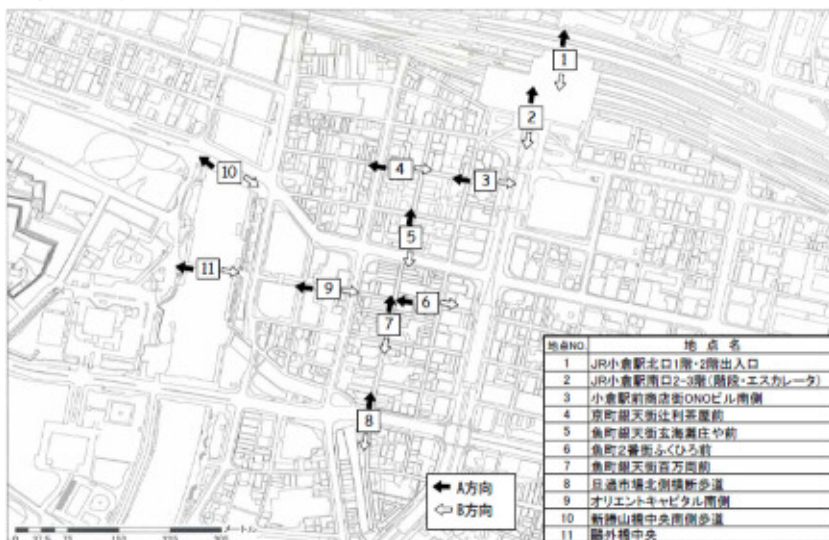
※調査月：H19～H21 8月上旬～9月上旬

H22～H25 8月、10月、12月、2月の平均値

※調査主体：北九州市

※調査対象：商業集積エリア内の11ヶ所における歩行者通行量

■歩行者通行量調査地点の位置



2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業（株式会社アパマンショップホールディングス）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 (平成23年度～平成24年度)
事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度【済】
事業概要	既存のラフォーレビル（一部空きビル）を活用して、北九州市漫画ミュージアムを核に関連テナントなどによる集客等の機能を導入し、小倉駅新幹線口（北口）地区の新たな拠点として再生
目標値・最新値	(目標値) 30,140 人/日 (最新値) 21,920 人/日

達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	サブカルチャーに特化することで強力な集客力を発揮、年間約 200 万人の来場者数があったものの、当初見込んでいた年間 250 万人には届かず、目標未達成となった。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き広域からの集客基盤施設として重要な役割を果たすとともに、特に JR 小倉駅新幹線口（北口）エリアへの回遊性向上につながっており、中心市街地活性化に大きく貢献している。
小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業の今後について	実施済み

② 小倉記念病院新築移転事業（財団法人平成紫川会）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	総合病院（循環器科、心臓血管外科、脳神経外科を核とした全 24 診療科目）の整備
目標値・最新値	（目標値） 3,150 人/日 （最新値） 5,403 人/日
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	新しく清潔でゆとりあるスペース、最新の設備を有していることに加え、ペDESTリアンデッキで JR 小倉駅に直結しているアクセス利便性の高さなどから、当初見込みの約 2 倍の来院者があり、目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き広域医療施設としての機能を発揮しており、中心市街地の都市福利の充実や就業の場の創出による活力向上などに貢献している。
小倉記念病院新築移転事業の今後について	実施済み

③ チャチャタウン小倉 2 期開発事業（西日本鉄道株式会社）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	未着手【未】
事業概要	バス営業所機能、バス駐機場、商業施設、駐車場を備えた建物を一体的に整備
目標値・最新値	（目標値） 10,360 人/日 （最新値） 事業未着手のため、最新値なし
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	経済情勢の悪化により、実施主体である西日本鉄道㈱が事業着手時期を慎重に見極めたいとして事業が休止している。
計画終了後の状況（事業効果）	当面、計画は凍結。
チャチャタウン小倉 2 期開発事業の今後について	引き続き事業化に向けて検討を続ける

④ 北九州市漫画ミュージアム整備事業（北九州市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業(小倉都心地区)） （平成 22 年度～平成 25 年度）
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 25 年度【済】
事業概要	展示機能（常設展示室、企画展示室）、閲覧機能（漫画コミック等閲覧コーナー）、交流機能等（交流スペース等において、漫画教室等の実施）を有する漫画文化の拠点整備
目標値・最新値	（目標値） 140 人/日 （最新値） 806 人/日
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	同施設の入居施設が当初予定の「チャチャタウン小倉 2 期開発事業」から小倉駅新幹線（北）口至近に整備された「あるある City（小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業）」に変更になったことから、当初見込んでいた効果を大幅に超える結果となり、目標を達成した。
計画終了後の状況 （事業効果）	引き続き広域からの集客基盤施設として重要な役割を果たすとともに、特に JR 小倉駅新幹線口（北口）エリアへの回遊性向上につながっており、中心市街地活性化に大きく貢献している。
北九州市漫画ミュージアム整備事業の今後について	実施済み

⑤ 旦過第一地区市街地再開発事業（旦過第一地区市街地再開発組合（予定））

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了時期	未着手【未】
事業概要	旦過市場の再整備
目標値・最新値	（目標値） 16,550 人/日 （最新値） 事業未着手のため、最新値なし
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	平成 17 年度より基本計画を作成し、地区別説明会を開催してきたものの、地権者の合意形成が難航したため、事業未着手となった。
計画終了後の状況 （事業効果）	市の河川事業と一体的に進めることで早期事業着手ができるように平成 23 年度末より関係機関により協議を開始している。
旦過第一地区市街地再開発事業の今後について	平成 24 年 10 月から、地元住民を加えた勉強会を発足し、再開発事業の基礎となるまちづくり構想を作成するなど、官民一体となった事業推進を図っており、引き続き早期の事業着手を目指す。

⑥ 魚町 3 丁目複合商業施設開発事業（株式会社リアルエステートサービス）

支援措置名及び 支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 （平成 22 年度～平成 23 年度）
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 23 年度【済】
事業概要	地産地消の生鮮食料品を中心とした商業施設および周辺で不足しているトイレや駐車場等の利便施設の整備
目標値・最新値	（最新値） 12,467 人/日
達成状況	—

達成した（出来なかった）理由	平成 24 年 4 月にオープンし、当施設の整備効果および「中心市街地都市型ビジネス振興事業」や「提案型まちづくりサポーター支援事業などのソフト事業の効果により、施設前の歩行者通行量が大幅に増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	これまで商店街になかった広大な休憩スペースや誰でも気軽に利用できるおもてなしトイレを整備したことで、周辺商店街における回遊性の向上に寄与しており、事業効果が得られている。
魚町 3 丁目複合商業施設開発事業の今後について	実施済み

⑦ 快適に回遊できる歩行者空間創出事業（北九州市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業(小倉都心地区)） （平成 23 年度～平成 24 年度）
事業開始・完了時期	平成 23 年度～平成 25 年度【実施中】
事業概要	雨に濡れずに歩くことができる歩行空間（ペDESTリアンデッキ上のルーフ）の整備、横断歩道橋の撤去
目標値・最新値	—
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	平成 22 年度に平和歩道橋の撤去を行い、主要交差点のバリアフリー化を図った。また、平成 24 年 9 月には、小倉駅小倉城口のペDESTリアンデッキ上に太陽光ルーフを整備し、一部区間を除き供用を開始した。
計画終了後の状況（事業効果）	駅から雨に濡れることなく大規模商業施設等に向かうことができる歩行者動線が確保されたことで、回遊性の向上に寄与しており、事業効果が得られている。
快適に回遊できる歩行者空間創出事業の今後について	未供用となっている区間の早期供用に向けて、引き続き太陽光ルーフの整備を推進する。

3. 今後について

新たな集客核・回遊拠点として期待されたチャチャタウン小倉 2 期開発事業や旦過第一地区市街地再開発事業などが、厳しい経済状況や地権者の合意形成の難航などにより未着手となったため、計画当初に見込んでいた効果が得られなかった。一方で、小倉記念病院新築移転事業や小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業、魚町三丁目複合商業施設新築事業など集客の核となる施設の整備は、歩行者通行量の増加に効果があった。

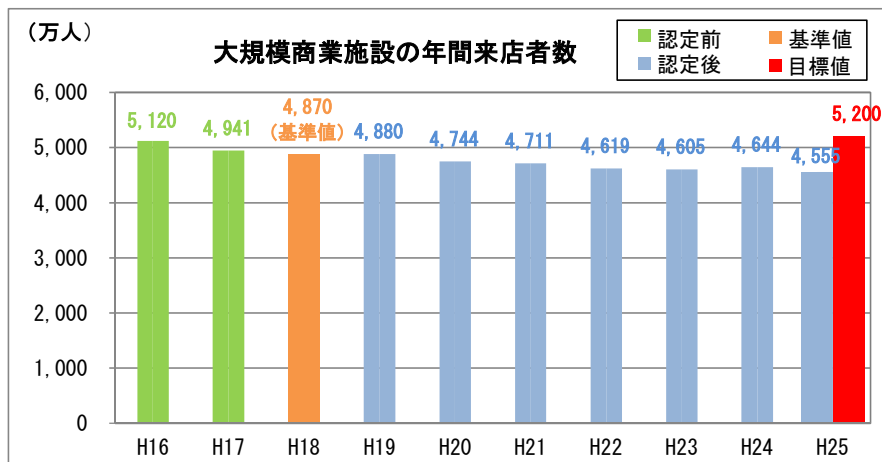
今後は引き続き、商業・業務・住居施設等を整備する市街地再開発事業の推進や未着手となっている核事業の早期着手を目指し、中心市街地の魅力を高める。

また、これまで完成した都市基盤施設を活用して、新たな集客施設や既存の大規模商業施設、地元商店街との相互の連携を図り、小倉駅南北の回遊性を高める取り組みなどを進めていく。

目標「広域商業拠点の賑わいの向上」

「大規模商業施設の年間来店者数」※目標設定の考え方基本計画 P70、P80 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/年)
H18	48,695,683 (基準値)
H19	48,798,514
H20	47,443,153
H21	47,105,365
H22	46,191,876
H23	46,052,870
H24	46,436,942
H25	45,548,223
H25	52,000,000 (目標)

※調査方法：主要大規模商業施設からの報告による実績値合計

※調査月：毎年度（通年）

※調査主体：北九州市

※調査対象：小倉都心地区内の主要大規模商業施設（井筒屋、リバーウォーク北九州、チャチャタウン小倉、セントシティ北九州、アミュプラザ）における来店者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業（株式会社アパマンショップホールディングス）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 (平成 23 年度～平成 24 年度)
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 24 年度【済】
事業概要	既存のラフォーレビル（一部空きビル）を活用して、北九州市漫画ミュージアムを核に関連テナントなどによる集客等の機能を導入し、小倉駅新幹線口（北口）地区の新たな拠点として再生
目標値・最新値	(目標値) 1,614,000 人/年 (最新値) 1,126,076 人/年
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	サブカルチャーに特化することで強力な集客力を発揮、年間約 200 万人の来場者数があったものの、当初見込んでいた年間 250 万人に届かなかったことに加え、買い物目的の来街者ニーズが多様化し、大規模商業施設への来店者増加に結びつかなかったことから、目標未達成となった。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き広域からの集客基盤施設として重要な役割を果たすとともに、特に JR 小倉駅新幹線口（北口）エリアへの回遊性向上につながっており、中心市街地活性化に大きく貢献している。
小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業の今後について	実施済み

② 小倉記念病院新築移転事業（財団法人平成紫川会）

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	総合病院（循環器科、心臓血管外科、脳神経外科を核とした全 24 診療科目）の整備
目標値・最新値	（目標値）168,000 人/年 （最新値）277,601 人/年
達成状況	目標達成
達成した（出来なかつた）理由	新しく清潔でゆとりあるスペース、最新の設備を有していることに加え、ペDESTリアンデッキで JR 小倉駅に直結しているアクセス利便性の高さなどから、当初見込みの約 2 倍の来院者があり、大規模商業施設の来店者増加につながった。
計画終了後の状況 （事業効果）	引き続き広域医療施設としての機能を発揮しており、中心市街地の都市福利の充実や就業の場の創出による活力向上などに貢献している。
小倉記念病院新築移 転事業の今後につ いて	実施済み

③ チャチャタウン小倉 2 期開発事業（西日本鉄道株式会社）

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了時期	未着手【未】
事業概要	バス営業所機能、バス駐機場、商業施設、駐車場を備えた建物を一体的に整備
目標値・最新値	（目標値）4,235,000 人/年 （最新値）事業未着手のため、最新値なし
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかつた）理由	経済情勢の悪化により、実施主体である西日本鉄道株が事業着手時期を慎重に見極めたいとして事業が休止している。
計画終了後の状況 （事業効果）	当面、計画は凍結。
チャチャタウン小倉 2 期開発事業の今後 について	引き続き事業化に向けて検討中

④ 北九州市漫画ミュージアム整備事業（北九州市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（小倉都心地区）） （平成 22 年度～平成 25 年度）
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 25 年度【済】
事業概要	展示機能（常設展示室、企画展示室）、閲覧機能（漫画コミック等閲覧コーナー）、交流機能等（交流スペース等において、漫画教室等の実施）を有する漫画文化の拠点整備
目標値・最新値	（目標値）51,000 人/年 （最新値）35,451 人/年
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかつた）理由	当施設の来場者は当初見込みの 10 万人を超えたものの、大規模商業施設の来店者増加への波及が見込みに届かなかったため、目標未達成となった。

計画終了後の状況 (事業効果)	引き続き広域からの集客基盤施設として重要な役割を果たすとともに、特に JR 小倉駅新幹線口（北口）エリアへの回遊性向上につながっており、中心市街地活性化に大きく貢献している。
北九州市漫画ミュージアム整備事業の今後について	実施済み

⑤ 旦過第一地区市街地再開発事業（旦過第一地区市街地再開発組合（予定））

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了時期	未着手【未】
事業概要	旦過市場の再整備
目標値・最新値	（目標値）641,000 人/年 （最新値）事業未着手のため、最新値なし
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	平成 17 年度より基本計画を作成し、地区別説明会を開催してきたものの、地権者の合意形成が難航したため、事業未着手となった。
計画終了後の状況 (事業効果)	市の河川事業と一体的に進めることで早期事業着手ができるように平成 23 年度末より関係機関により協議を開始している。
旦過第一地区市街地再開発事業の今後について	平成 24 年 10 月から、地元住民を加えた勉強会を発足し、再開発事業の基礎となるまちづくり構想の素案を作成するなど、官民一体となった事業推進を図っており、引き続き早期の事業着手を目指す。

⑥ 魚町 3 丁目複合商業施設開発事業（株式会社リアルエステートサービス）

支援措置名及び 支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 （平成 22 年度～平成 23 年度）
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 23 年度【済】
事業概要	地産地消の生鮮食料品を中心とした商業施設および周辺で不足しているトイレや駐車場等の利便施設の整備
目標値・最新値	（最新値）378,224 人/年
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	平成 24 年 4 月にオープンし、当施設の整備効果および「中心市街地都市型ビジネス振興事業」や「提案型まちづくりサポーター支援事業などのソフト事業の効果により、施設前の歩行者通行量が大幅に増加、大規模商業施設の来店者数増加につながっている。
計画終了後の状況 (事業効果)	これまで商店街になかった広大な休憩スペースや誰でも気軽に利用できるおもてなしトイレを整備したことで、周辺商店街における回遊性の向上に寄与しており、事業効果が得られている。
魚町 3 丁目複合商業施設開発事業の今後について	実施済み

⑦ 快適に回遊できる歩行者空間創出事業（北九州市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（小倉都心地区）） （平成 23 年度～平成 24 年度）
事業開始・完了時期	平成 23 年度～平成 25 年度【実施中】

事業概要	雨に濡れずに歩くことができる歩行空間（ペDESTリアンデッキ上のルーフ）の整備、横断歩道橋の撤去
目標値・最新値	－
達成状況	－
達成した（出来なかった）理由	平成 22 年度に平和歩道橋の撤去を行い、主要交差点のバリアフリー化を図った。また、平成 24 年 9 月には、小倉駅小倉口のペDESTリアンデッキ上に太陽光ルーフを整備し、一部区間を除き供用を開始した。
計画終了後の状況（事業効果）	駅から雨に濡れることなく大規模商業施設等に向かうことができる歩行者動線が確保されたことで、回遊性の向上に寄与しており、事業効果が得られている。
快適に回遊できる歩行者空間創出事業の今後について	未供用となっている区間の早期供用に向けて、引き続き太陽光ルーフの整備を推進する。

3. 今後について

新たな集客核・回遊拠点として期待されたチャチャタウン小倉 2 期開発事業や旦過第一地区市街地再開発事業などが、厳しい経済状況や地権者の合意形成の難航などにより未着手となったため、計画当初に見込んでいた効果が得られなかった。一方で、小倉記念病院新築移転事業や小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業、魚町三丁目複合商業施設新築事業など集客の核となる施設の整備に加え、快適に回遊できる歩行者空間創出事業や魚町銀天街ショッピングモール化事業などの歩行者空間の快適性向上施策の効果により、大規模商業施設の年間来店者数はこれまでの減少傾向から横ばい傾向へ改善した。

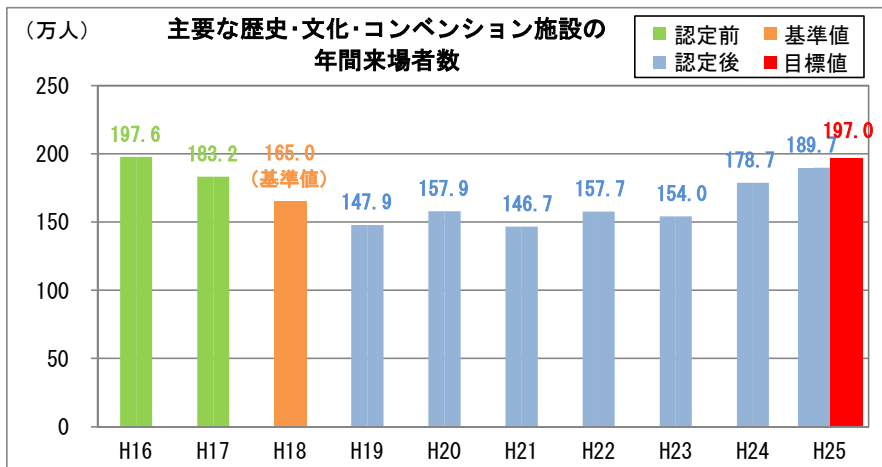
今後は引き続き、商業・業務・住居施設等を整備する市街地再開発事業の推進や未着手となっている核事業の早期着手を目指し、中心市街地の魅力を高める。

また、これまで完成した都市基盤施設を活用して、新たな集客施設や既存の大規模商業施設、地元商店街との相互の連携を図り、これまで継続的に実施してきた地域一体となったイベントへの来訪者の回遊を効果的に促進するなど、大規模商業施設の来店者数増加に向けた取り組みを進めていく。

目標「文化的で非日常的な都心の魅力向上」

「主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数」※目標設定の考え方基本計画 P70、P89 参照

1. 調査結果の推移



年	(万人/年)
H18	165.0 (基準値)
H19	147.9
H20	157.9
H21	146.7
H22	157.7
H23	154.0
H24	178.7
H25	189.7
H25	197.0 (目標)

※調査方法：各施設からの報告による実績値合計

※調査月：毎年度（通年）

※調査主体：北九州市

※調査対象：小倉都心地区内の主要な歴史・文化・コンベンション施設（小倉城、小倉城庭園、松本清張記念館、水環境館、北九州芸術劇場、北九州市立美術館分館、北九州市立文学館、アルモニーサンク北九州ソレイユホール、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館・本館、北九州市漫画ミュージアム）の来場者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 北九州市漫画ミュージアム整備事業（北九州市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業(小倉都心地区)） (平成 22 年度～平成 25 年度)
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 25 年度【済】
事業概要	展示機能（常設展示室、企画展示室）、閲覧機能（漫画コミック等閲覧コーナー）、交流機能等（交流スペース等において、漫画教室等の実施）を有する漫画文化の拠点整備
目標値・最新値	(目標値) 100,000 人/年 (最新値) 102,547 人/年
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	概ね当初見込み通りの来場者があり、目標達成となった。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き広域からの集客基盤施設として重要な役割を果たすとともに、特に JR 小倉駅新幹線口（北口）エリアへの回遊性向上につながっており、中心市街地活性化に大きく貢献している。
北九州市漫画ミュージアム整備事業の今後について	実施済み

② 小倉城周辺 4 施設（小倉城、小倉城庭園、松本清張記念館、水環境館）に関する事業

- ・小倉城周辺観光振興事業（北九州市）
- ・小倉城整備事業（北九州市）
- ・小倉城庭園企画展事業（北九州市）
- ・小倉城庭園文化講座開催事業（北九州市）
- ・松本清張記念館普及事業（北九州市）

支援措置名及び支援期間	—	
事業開始・完了時期	平成 20 年度～【実施中】	
事業概要	小倉城周辺観光振興事業	小倉城・熊本城のお城交流や観光客誘致用リーフレット等の作成
	小倉城整備事業	小倉城ジオラマ案内システムなど、映像音声再生機器の更新や、城内の設備機器の整備等
	小倉城庭園企画展事業	展示・イベント・行事等魅力あふれる企画を展開
	小倉城庭園文化講座開催事業	各種文化講座を開催し、伝統文化復興のための活動の場を提供
	松本清張記念館普及事業	開館記念や企画展及び講演会等の開催
目標値・最新値	（目標値）405,000 人/年：4 施設合計 （最新値）391,328 人/年：4 施設合計	
達成状況	目標未達成	
達成した（出来なかった）理由	特に小倉城および小倉城庭園の来場者が順調に増加したが、水環境館および松本清張記念館の来場者数は、企画展の内容よりばらつきが見られ、目標未達成となった。	
計画終了後の状況（事業効果）	北九州市の歴史・文化施設が集積する拠点として広域的な集客力を発揮、都心部の回遊性や周辺施設への来場者増加に寄与しており、中心市街地活性化に貢献している。	
小倉城周辺 4 施設（小倉城、小倉城庭園、松本清張記念館、水環境館）に関する事業の今後について	引き続きイベント等の開催や PR 等を実施していく。	

③ 北九州芸術文化活性化事業（北九州市）

支援措置名及び支援期間	—	
事業開始・完了時期	平成 15 年度～【実施中】	
事業概要	北九州芸術劇場を核として、質の高い国際的・全国的な公演の開催やワークショップの実施など、市民が芸術文化を広く享受できる活動の推進を図る。	
目標値・最新値	（目標値）297,000 人/年 （最新値）283,134 人/年	
達成状況	目標未達成	
達成した（出来なかった）理由	平成 22 年度には目標値を上回るなど、概ね計画通りの来場者数増加が図られてきているものの、年度によりばらつきが見られ、目標未達成となった。	

計画終了後の状況 (事業効果)	文化の薫るまちとしてのイメージアップが図られてきており、文化的で非日常的な都心の魅力向上により、中心市街地活性化に貢献している。
北九州芸術文化活性化事業の今後について	引き続き、市民が芸術文化を広く享受できる活動を推進していく。

④ 北九州市立美術館分館企画展示事業（北九州市）

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	デザイン・グラフィック展、絵本展、工芸展、ポスター展など、幅広いジャンルの展覧会等の開催
目標値・最新値	(目標値) 73,000 人/年 (最新値) 58,565 人/年
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	計画期間中、目標値の 2 倍を超える来場者数となっている年度もあるものの、企画展の内容によりばらつきが大きく、目標未達成となった。
計画終了後の状況 (事業効果)	芸術にふれあう機会の増加などにより、小倉都心地区の賑わい促進など、文化的で非日常的な都心の魅力向上につながっており、中心市街地活性化に貢献している。
北九州市立美術館分館企画展示事業の今後について	引き続き、様々な企画展等を実施していく。

⑤ 北九州市立文学館普及事業（北九州市）

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	近代文芸に関する資料の展示を中心に、企画展、収蔵品展及び講演会・文芸講座等の開催
目標値・最新値	(目標値) 11,000 人/年 (最新値) 13,211 人/年
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	年間を通じて様々な企画展を開催したことにより、目標を達成した。
計画終了後の状況 (事業効果)	文化の薫るまちとしてのイメージアップが図られてきており、文化的で非日常的な都心の魅力向上により、中心市街地活性化に大きく貢献している。
北九州市立文学館普及事業の今後について	引き続き、様々な企画展等を実施していく。

⑥ コンベンション振興事業（北九州市）

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度～【実施中】

事業概要	コンベンションの誘致活動、海外コンベンションネットワーク化の推進、イベント・コンベンション、東アジアをターゲットとした誘致戦略、全国女性俳句大会開催等
目標値・最新値	(目標値) 1,023,000人/年：3施設*合計 (最新値) 887,500人/年：3施設*合計 ※北九州国際会議場、西日本総合展示場新館・本館
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	「青年会議所全国大会」や「B-1グランプリ in 北九州」などの大規模コンベンションの積極的な誘致や、市制50周年に関連したイベント等の開催を行ってきたものの、経済状況の変化により大規模コンベンション施設を利用するイベントが減少しているため、目標未達成となった。
計画終了後の状況(事業効果)	経済状況の変化により利用は低迷しているものの、文化の薫るまちとしてのイメージアップが図られてきており、文化的で非日常的な都心の魅力向上により、中心市街地活性化に貢献している。
コンベンション振興事業の今後について	アジアとの近接性を活かした国際コンベンションの誘致強化などの誘致活動を精力的に実施していく。

⑦ 九州厚生年金会館リニューアルオープン事業(アルモニーサンク改修事業)(北九州市)

支援措置名及び支援期間	都市公園事業、住宅・建築物安全ストック形成事業 (平成20年度～21年度) 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(小倉都心地区)) (平成25年度)
事業開始・完了時期	平成20年度～平成25年度【済】
事業概要	ホール内のバリアフリー化、耐震改修等
目標値・最新値	(最新値) 161,111人/年
達成状況	—
達成した(出来なかった)理由	平成22年10月のリニューアルオープン以降、コンサートや講演会などが頻繁に開催され、多くの来場者を集めている。
計画終了後の状況(事業効果)	引き続き、北九州市の文化拠点として重要な役割を果たすとともに、都心部の回遊性や周辺施設への来場者増加に寄与しており、中心市街地活性化に大きく貢献している。
九州厚生年金会館リニューアルオープン事業(アルモニーサンク改修事業)の今後について	実施済み

3. 今後について

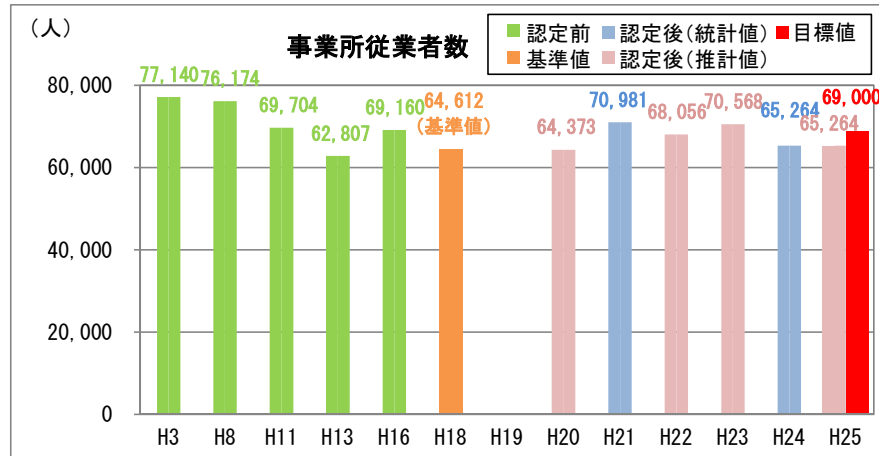
全国的な催事の一括化や厳しい経済状況により大規模コンベンション施設の利用が伸び悩んだことなどから目標の達成はできなかった。一方で、北九州市漫画ミュージアム整備事業や九州厚生年金会館リニューアルオープン事業(アルモニーサンク改修事業)などの文化交流施設の開設や小倉城周辺施設や北九州市立文学館などの既存施設の利用促進策の実施は来場者の増加に効果があった。

今後は引き続き歴史・文化施設の集客力強化に資する取り組みを継続的かつ着実に実施していくとともに、利用が低迷しているコンベンション施設の利用促進に向けて、アジアとの近接性を活かした国際コンベンションの誘致強化などの活動を精力的に実施していく。

目標「昼間人口の拡大による活力向上」

「事業所従業者数」※目標設定の考え方基本計画 P70、P93 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H18	64,612 (基準値)
H19	—
H20	64,373 (推計値)
H21	70,981
H22	68,056 (推計値)
H23	70,568 (推計値)
H24	65,264
H25	65,264 (推計値)
H25	69,000 (目標)

※調査方法：H18 は事業所・企業統計調査による統計値
 : H20 は事業所・企業統計調査による独自推計
 : H21・H24 は経済センサス調査による統計値
 : H22・H23 は経済センサス調査と業務ビル空室率調査を併せた独自推計
 : H25 は H24 の傾向が継続するものとして推計
 ※経済センサス調査と事業所・企業統計調査では調査手法が異なる。

※調査月：毎年7月

※調査主体：北九州市

※調査対象：中心市街地内の民間事業所従業者

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業（株式会社アパマンショップホールディングス）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 (平成23年度～平成24年度)
事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度【済】
事業概要	既存のラフォーレビル（一部空きビル）を活用して、北九州市漫画ミュージアムを核に関連テナントなどによる集客等の機能を導入し、小倉駅新幹線口（北口）地区の新たな拠点として再生
目標値・最新値	(目標値) 300人 (最新値) 300人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	計画通り事業が実施され、平成24年4月に漫画やアニメなどのサブカルチャーを集積した商業施設（名称：あるあるCity）がオープンしたことで、目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き広域からの集客基盤施設として重要な役割を果たすとともに、特にJR小倉駅新幹線口（北口）エリアへの回遊性向上につながっており、中心市街地活性化に大きく貢献している。
小倉駅北口商業ビル（ラフォーレ跡）再生事業の今後について	実施済み

② 小倉記念病院新築移転事業（財団法人平成紫川会）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 22 年度【済】
事業概要	総合病院（循環器科、心臓血管外科、脳神経外科を核とした全 24 診療科目）の整備
目標値・最新値	（目標値）1,000 人 （最新値）1,566 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	計画通りに事業が実施され、平成 22 年 12 月に開院された。当初見込みの 1.5 倍の雇用があり、目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	引き続き広域医療施設としての機能を発揮しており、中心市街地の都市福利の充実や就業の場の創出による活力向上などに貢献している。
小倉記念病院新築移転事業の今後について	実施済み

③ チャチャタウン小倉 2 期開発事業（西日本鉄道株式会社）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	未着手【未】
事業概要	バス営業所機能、バス駐機場、商業施設、駐車場を備えた建物を一体的に整備
目標値・最新値	（目標値）310 人 （最新値）事業未着手のため、最新値なし
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	経済情勢の悪化により、実施主体である西日本鉄道株が事業着手時期を慎重に見極めたいとして事業が休止している。
計画終了後の状況（事業効果）	当面、計画は凍結。
チャチャタウン小倉 2 期開発事業の今後について	引き続き事業化に向けて検討中

④ 旦過第一地区市街地再開発事業（旦過第一地区市街地再開発組合（予定））

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	未着手【未】
事業概要	旦過市場の再整備
目標値・最新値	（目標値）108 人 （最新値）事業未着手のため、最新値なし
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	平成 17 年度より基本計画を作成し、地区別説明会を開催してきたものの、地権者の合意形成が難航したため、事業未着手となった。
計画終了後の状況（事業効果）	市の河川事業と一体的に進めることで早期事業着手ができるように平成 23 年度末より関係機関により協議を開始している。

巨過第一地区市街地再開発事業の今後について	平成 24 年 10 月から、地元住民を加えた勉強会を発足し、再開発事業の基礎となるまちづくり構想を作成するなど、官民一体となった事業推進を図っており、引き続き早期の事業着手を目指す。
-----------------------	--

⑤ 小倉駅南口東地区市街地再開発事業（小倉駅南東地区市街地再開発組合（予定））

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） （平成 19 年度～平成 27 年度）
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	業務施設、商業施設、公益施設、及び駐車場を備えた民間再開発ビルの整備
目標値・最新値	（目標値）1,614 人 （最新値）事業未完了のため、最新値なし
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	保留床の処分について、デベロッパーを中心とする関係者間の調整に時間を要したことから、事業未完了となった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 25 年度に都市計画変更手続きを実施し、組合設立。平成 26 年度に事業認可を予定している。
小倉駅南口東地区市街地再開発事業の今後について	今後も引き続き早期の事業完了を目指す。

⑥ 北九州市立思永中学校整備 PFI 事業（北九州市、思永コミュニティサービス）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 16 年度～平成 35 年度【済】
事業概要	PFI 方式により思永中学校整備、西日本工業大学大学院・地域連携センターの整備
目標値・最新値	（目標値）14 人 （最新値）37 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	計画通りに事業が実施され、平成 21 年度から供用が開始された。当初見込みの 2 倍以上の雇用があり、目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	私立大学が誘致されたことで、昼間人口の増加に寄与しており、中心市街地の活力向上などに貢献している。
北九州市立思永中学校整備 PFI 事業の今後について	実施済み（施設の管理運営は平成 35 年度まで継続）

⑦ チャレンジショップ事業（北九州まちづくり応援団㈱）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	未着手【未】
事業概要	情報発信機能を兼ね備えたチャレンジショップの開設と、テナント(チャレンジャー)支援
目標値・最新値	（目標値）20 人 （最新値）事業未実施のため最新値なし
達成状況	目標未達成

達成した（出来なかった）理由	経済状況の変化などにもない地権者との合意形成に時間を要しており、事業未着手となった。
計画終了後の状況（事業効果）	後述する「中心市街地都市型ビジネス事業」によるリノベーションプロジェクトにより、小規模の起業が多数あり、当該事業の目的は概ね達成された。
チャレンジショップ事業の今後について	事業計画の再検討を実施している。

⑧ 起業支援（北九州テレワークセンター）（北九州市）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 12 年度～【実施中】
事業概要	「北九州テレワークセンター」において、情報通信ネットワークを活用したビジネスを展開する IT ベンチャー企業等に対して、オフィスを提供
目標値・最新値	（目標値）40 人 （最新値）47 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	平成 20 年度にベンチャー企業を支援する「北九州ベンチャーイノベーションクラブ」を創設し、平成 21 年度からは起業支援のための事業を実施、さらに平成 23 年度以降はベンチャー企業育成補助金の交付などを実施したことで目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	就業の場の創出により、昼間人口の拡大などに寄与しており、中心市街地の活力向上に貢献している。
起業支援（北九州テレワークセンター）の今後について	引き続き就業の場の創出に向けた取り組みを継続していく。

⑨ 若者ワークプラザ北九州運営事業（北九州市）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	若年者を対象とした、就業相談、セミナーの開催、各種情報提供、職業紹介など就業支援
目標値・最新値	（目標値）431 人 （最新値）1,200 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	平成 19 年度に拡張・改修を実施した施設を活用するとともに、平成 23 年度には（仮称）就職・ビジネス塾の実施したことなどにより、目標を達成した。
計画終了後の状況（事業効果）	若年層に対してワンストップの就業支援サービスを提供することにより、就業・雇用の促進・昼間人口の拡大などに寄与しており、中心市街地の活力向上などに貢献している。
若者ワークプラザ北九州運営事業の今後について	引き続き就業支援サービスを提供していく。

⑩ 空き店舗賃借料補助制度の拡充（北九州市）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成8年度～【実施中】
事業概要	商店街の空き店舗を活用する個人事業者に対して、賃借料及び改装費の一部を補助する制度の拡充
目標値・最新値	(目標値) 75人 (最新値) 48人
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	経済状況の変化などにもない当初見込みより採択事業数が減少したため、目標未達成となった。
計画終了後の状況（事業効果）	目標は未達成となったものの、従業者数の増加や空き店舗の解消につながっており、中心市街地の活力向上などに貢献している。
空き店舗賃借料補助制度の拡充の今後について	引き続き、空き店舗の解消や雇用の創出を推進する。

⑪ （仮称）浅野複合老健施設新築事業（社会福祉法人風花会）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） (平成22年度) ※平成22年度～平成24年度に高齢者等居住安定化推進事業を活用
事業開始・完了時期	平成22年度～平成24年度【済】
事業概要	デイサービス、有料老人ホーム、地域交流ホール、賃貸住宅等
目標値・最新値	(最新値) 30人
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	デイサービスや老人ホーム、賃貸住宅を備えた複合施設が、平成24年度に完成した。
計画終了後の状況（事業効果）	昼間・夜間人口の増加に寄与しており、中心市街地の活力向上などに貢献している。
（仮称）浅野複合老健施設新築事業の今後について	実施済み

⑫ 魚町3丁目複合商業施設開発事業（株式会社リアルエステートサービス）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 (平成22年度～平成23年度)
事業開始・完了時期	平成22年度～平成23年度【済】
事業概要	地産地消の生鮮食料品を中心とした商業施設および周辺で不足しているトイレや駐車場等の利便施設の整備
目標値・最新値	(最新値) 30人
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	商業施設および駐車場等の利便施設が平成24年4月にオープンした。
計画終了後の状況（事業効果）	昼間人口の増加に寄与するとともに、これまで商店街になかった広大な休憩スペースや誰でも気軽に利用できるおもてなしトイレを整備したことで、周辺商店街における回遊性の向上に寄与しており、事業効果が得られている。

魚町3丁目複合商業
施設開発事業の今後
について

実施済み

⑬ 九州厚生年金会館リニューアルオープン事業（アルモニーサンク改修事業）（北九州市）

支援措置名及び 支援期間	都市公園事業、住宅・建築物安全ストック形成事業 （平成20年度～21年度） 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（小倉都心地区）） （平成25年度）
事業開始・完了時期	平成20年度～平成25年度【済】
事業概要	ホール内のバリアフリー化、耐震改修等
目標値・最新値	（最新値）160人
達成状況	—
達成した（出来な かった）理由	平成22年10月にリニューアルオープンした。
計画終了後の状況 （事業効果）	昼間人口の増加に寄与に寄与するとともに、北九州市の文化拠点として重 要な役割を果たすことで、都心部の回遊性や周辺施設への来場者増加にも 寄与しており、中心市街地活性化に大きく貢献している。
九州厚生年金会館リ ニューアルオープン 事業（アルモニーサ ンク改修事業）の今 後について	実施済み

⑭ （仮称）TANGAコンプレックス新築事業（株式会社サンスカイホテル）

支援措置名及び 支援期間	高齢者居住安定化モデル事業補助金 （平成21年度～平成23年度）
事業開始・完了時期	平成21年度～平成23年度【済】
事業概要	高齢者施設、テナント、賃貸マンション、イベントホール等
目標値・最新値	（最新値）54人
達成状況	—
達成した（出来な かった）理由	高齢者施設やテナント、イベントホールなどを備えた民間ビルが平成24年 度に完成した。
計画終了後の状況 （事業効果）	昼間・夜間人口の増加に寄与しており、中心市街地の活力向上などに貢献 している。
（仮称）TANGA コンプレックス新築 事業の今後について	実施済み

⑮ にぎわいの駅・小倉屋台村事業（NQ屋台村有限責任事業組合）

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了時期	平成24年度【済】
事業概要	夜のにぎわいづくりとして、屋台村の設置（13店舗）
目標値・最新値	（最新値）36人
達成状況	—

達成した（出来なかった）理由	平成 24 年度に中心市街地内の空地（平面駐車場）に店舗数 13 の屋台村がオープンした。
計画終了後の状況（事業効果）	就業人口の増加に寄与するとともに、夜間のにぎわい創出にもつながっており、中心市街地の活力向上などに貢献している。
にぎわいの駅・小倉屋台村事業の今後について	実施済み

⑩ 中心市街地都市型ビジネス振興事業（北九州市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（小倉都心地区））（平成 25 年度）
事業開始・完了時期	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	「小倉家守構想」に基づいた「都市型ビジネス振興」の推進によるまちなか再生
目標値・最新値	（最新値）214 人
達成状況	－
達成した（出来なかった）理由	リノベーションなどに関する講座の開催、民間プロジェクトの支援などを実施した。
計画終了後の状況（事業効果）	リノベーション手法による空きビル・空き店舗の改修が行われたことで、昼間人口の増加に寄与しており、中心市街地の活力向上などに貢献している。
中心市街地都市型ビジネス振興事業の今後について	引き続きリノベーションプロジェクトを推進していく。

⑪ 街なかオフィス立地促進事業（北九州市）

支援措置名及び支援期間	－
事業開始・完了時期	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	事業所の新設・増設の支援
目標値・最新値	（最新値）311 人
達成状況	－
達成した（出来なかった）理由	都心部への都市型オフィス系事務所等の移転に対して、移転経費の一部を支援するインセンティブにより、都市型業務の進出を促進、平成 22 年度に携帯電話会社のお客様相談センターがされた。
計画終了後の状況（事業効果）	昼間人口の増加に寄与しており、中心市街地の活力向上などに貢献している。
街なかオフィス立地促進事業の今後について	引き続き都市型オフィス系事務所等の移転を促進していく。

3. 今後について

新たな雇用の場として期待されたチャチャタウン小倉 2 期開発事業や旦過第一地区市街地再開発事業、小倉駅南口東地区市街地再開発事業などが、厳しい経済状況や地権者の合意形成の難航、保留床の処分に関する調整に時間を要したことなどにより、未着手あるいは未完了となり、計画期間内に効果が得られなかった。一方で、小倉記念病院新築移転事業や若者ワークプラザ北九州運営

事業は当初の目標を大きく上回る効果を得られた。

また、計画期間内に追加した（仮称）浅野複合老健施設新築事業や魚町3丁目複合商業施設開発事業などの施設整備や中心市街地都市型ビジネス振興事業や街なかオフィス立地促進事業などの起業・就業支援事業も従業者数の押し上げに効果があった。

今後は引き続き未着手となっている民間事業について、早期の着手に向けた働きかけを積極的に行っていく。また、効果が発現している起業・就業支援事業については取り組みをさらに強化することで、今後とも雇用の増加を図っていく。